

令和4年度 授業改善推進プラン<1年国語>

国語科における昨年度の授業改善推進プランの検証

- ・教科として全体の目標値を11.2ポイント上回った。基礎・応用とも10ポイント上回っている。
一方で一部の項目において課題も見られたため重点的に克服しつつ、以下により授業の充実を図る。
- ・他者と意見を交流し、自分の考えを深める活動を行う。
ペアワークや班など、少人数で意見交換をする機会を設け、多様な考えに触れ、自己の考えを深める活動を行う。
- ・スピーチやプレゼンテーションなど様々な形式で、まとめたことを発表する場を増やす。
- ・文章の読み取り方を身につける
説明文では、段落の役割、文章の3段構成、段落の柱になる文を意識させる。文学作品では、時・場面・人物・事件を読み取り、文章の展開と結び付けながら、表現の効果についても考えられるよう促す。

国語科における調査結果の分析

内容別の結果分析	<ul style="list-style-type: none">・全ての分野において目標値を上回っており、小学校の学習内容は概ね定着していると考えられる。・「漢字を読む」「漢字を書く」の中で正答率が低い問題があった。読み書きそれぞれにおいて、中学校の新出漢字の習得のみならず、小学校の既習事項についても丁寧に復習する必要がある。・「文法・語句に関する事項」では、「連用修飾語について理解している」の項目で正答率が低かった。小学校の文法事項の復習を踏まえて、中学校段階の文法事項の習得を図っていく必要がある。・「文学的な文章の読み取り」では、目標値を上回ったが、「文章の展開と結び付けながら、表現の効果について考える」問題の読み取りでは解答のばらつきが見られた。
観点別の分析	<ul style="list-style-type: none">・目標値と比べると、「知識・技能」は9.6ポイント、「思考・判断・表現」は12.8ポイント「主体的に学習に取り組む態度」は13ポイント上回っている。「知識・技能」のポイントが低いのは、漢字の読み書きの正答率が目標値に近いためである。また、「連用修飾語」への理解についても目標値と同等であり、小学校で学習した漢字の復習や、文法事項のおさらいを反復して行っていく必要があると考えられる。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 知識・技能の定着を図る
 - ・特に文法に関する事項において、授業内での問題演習を充実させたり、内容ごとの小テスト等を行ったりして、着実に知識・技能の定着を図る。また、古典の学習においては繰り返し暗誦させることで古典独特の仮名遣いやリズムに慣れ定着を図る。
- 文章読解力の向上を図る
 - ・新出語句の確認を欠かさず行い、書かれていることを正しく読み取れるよう指導する。
 - ・読解の根拠となる文を題材ごとに丁寧に確認する。また、文章の展開と結び付けながら、表現の効果についても考えられるよう促す。

○文章を書く活動を継続する

- ・自分の考えをまとめ、文章で表現する活動は意識的に継続して取り組む。

○他者と意見を交流し、自分の考えを深める活動を行う

- ・少人数で意見交換をする機会を設け、多様な考えに触れ、自己の考えを深める活動を行う。

令和4年度 授業改善推進プラン〈2年国語〉

国語科における昨年度の授業改善推進プランの検証

・文章を書く機会を増やす

授業の内容に従って、自分の考えを書いたり、登場人物について読み取ったりして、文章を書くことになれさせる。

→書くことに対して意欲的に取り組む生徒が増え、学習効果測定にもその成果が現れている。

・文章の読み取り方を身につける

説明文では、段落の役割、文章の3段構成、段落の柱になる文を意識させる。文学作品では、時・場・人物・事件を読み取り、事件の流れや心情の変化を追うよう気をつけさせる。

→文章中のどの部分に必要な情報が書かれているのか適切に判断できる生徒がいる一方で、苦手意識をもっている生徒も一定数いる。

国語科における調査結果の分析

内容別 の結果 分析	<ul style="list-style-type: none">・全ての分野において目標値を上回っており、昨年度の学習内容は概ね定着していると考えられる。・「言葉の特徴や使い方に関する事項」は目標値を上回っているが、文法に関する問題で目標値を下回っているため、文節や文の成分等、文法に関する事項について学習内容の定着を図る必要がある。・「情報の扱い方に関する事項」は目標値を上回っているが、前年度と比較すると正答率が下がっているため、文章中から必要な情報を読み取る力を高める必要があると考えられる。「読むこと」「書くこと」にも同様のことが言える。・「我が国の言語文化に関する事項」は目標値を上回っており、学習内容について概ね定着していると考えられる。
観点 別の 分析	<ul style="list-style-type: none">・「知識・技能」については、目標値・全国正答率ともに上回っているが、漢字の読み書きや文法といった分野に関して学習内容の定着を図る必要がある。・「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」については、目標値だけでなく全国正答率をも上回っている。特に、記述問題に対する正答率が高く、全体として「考えをまとめようとする態度」や「文章を正しく書く力」が定着していると考えられる。これを持続できるように今後も授業内の取組を充実させたい。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 知識・技能の定着を図る
 - ・特に文法に関する事項において、授業内での問題演習を充実させたり、内容ごとの小テスト等を行ったりして、着実に知識・技能の定着を図る。
- 文章読解力の向上を図る
 - ・新出語句の確認を欠かさず行い、書かれていることを正しく読み取れるよう指導する。
 - ・読解の根拠となる文を題材ごとに丁寧に確認する。
- 文章を書く活動を継続する
 - ・自分の考えをまとめ、文章で表現する活動は意識的に継続して取り組む。
- 他者と意見を交流し、自分の考えを深める活動を行う
 - ・少人数で意見交換をする機会を設け、多様な考えに触れ、自己の考えを深める活動を行う。

令和4年度 授業改善推進プラン<3年国語>

国語科における昨年度の授業改善推進プランの検証

- ・テーマや条件に応じた文章を書く力の向上
 - 昨年度より、200字から400字程度の作文を授業で積極的に取り入れることで自分の意見を書く力の充実を図ってきた。しかし、効果測定の結果においては「指定された長さで文章を書くこと」や「読み取った内容を明確にして書く」力には課題が見られる。今後も、授業内での書く力の育成を図っていくが、時間内に指定された字数を書くことや、文章から読み取った要点を盛り込んで書くなど条件に応じた作文の力を身につけさせる。

国語科における調査結果の分析

内容別の結果分析	<ul style="list-style-type: none">・「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、全ての値が目標値を上回っており、第二学年までの漢字を読むことや、小学校で学習した漢字を書くことは定着していると考えられる。・「我が国の言語文化に関する事項」においては、歴史的仮名遣いの正答率が低い。一年次の歴史的仮名遣いについての規則をもう一度おさらいするとともに、古典の授業内で声に出して読んだり、書いたりする取組みの充実を図る。・「書くこと」においては、「指定された長さで文章を書くこと」や「読み取った内容を明確にして書く」ことに課題が見られるため、作文する際の指導方法や評価方法を工夫することで改善を図る。
観点別の分析	<ul style="list-style-type: none">・「知識・技能」については、目標値・全国平均共に上回っているが、文法、歴史的仮名遣いについては目標値を下回っているため、定着が必要である。・「思考・判断・表現」については、目標値を上回っているが、「文章全体と部分との関係」や「文章と図表との関係」を踏まえて解釈することに課題がある。論説文の授業を通して、それらの課題を改善するための取組みを実施する。・「主体的に学習に取り組む態度」においては「指定された長さで文章を書くこと」や「読み取った内容を明確にして書く」ことに課題が見られる。ただ書かせるだけでなくポイントを絞った授業を行う。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

○知識・技能の定着を図る

- ・漢字の読み書きの力の定着のため、小テストを繰り返し行う。文法事項や古典の歴史的仮名遣いについては、第一学年の内容を反復して学習することを通して定着を図る。

○文章読解力の向上を図る

- ・新出語句の確認を欠かさず行い、書かれていることを正しく読み取れるよう指導する。
- ・読解の根拠となる文を題材ごとに丁寧に確認する。
- ・説明文では、筆者の論の展開の仕方について批判的に考察させることを通して、段落の役割や構成を意識して読ませる。文学作品では、場面設定や心情の変化を追うよう気をつけさせる。

○文章を書く活動を継続する

- ・時間内に指定された字数を書くことや、文章から読み取った要点を盛り込んで書くなど条件に応じた作文の課題に継続的に取り組む。